

## つちだん 土談 ～ 土を学ぶコミュニティづくり 東海地区窯業四産地の東海湖産地構想への試み

株式会社RW 代表取締役 稲波伸行

### ◇ はじめに

“東海湖産地構想”及び“土談（つちだん）”は、縮小していく地場産業をどうやって魅力ある、関わりたいと思える産業に変えていくか、そのための、一つの挑戦のかたちです。産地を統合していかなければ、ものづくりができない状況になっている現実と、東海にあった地域の資産、古代湖“東海湖”の存在とその特徴ある土が、現状を打開する手がかりになると気づいた人々の、ある挑戦です。他の地場産業に関わる方たちにとって、何かヒントになれば幸いです。

### ◇ 地場産業の現状

地場産業として一括した統計データがあるわけではないですが、近い業態として、伝統的工芸品産業を参考にすると、その生産額は1983年に約5,400億

円でピークを迎え、その後は減少傾向にあります。2015年には約1,000億円程度まで落ち込み、ピーク時の約80%を失ったとされています。経済産業省から2022年に出された資料によると、その後2020年には870億円に減少。衰退の一途を辿っています。取り扱い品によって多少のばらつきはあるものの、全体的には右肩下がり。色々な方たちが衰退に歯止めをかけようと尽力していますが、生産額だけ見ると、減少し続けているのが現状です。

### ◇ 東海地区焼き物産地の現状

東海地区には焼き物産地が4つあります。瀬戸焼（愛知県）、常滑焼（愛知県）、美濃焼（岐阜県）、萬古焼（三重県）。歴史も特徴もそれぞれ違いますが、見て取れる傾向としては、組合加盟数が、ピーク時の3分の1から5分の1に減少しています。



瀬戸 加仙鉞山